

氏 名	本 田 昌 昭		
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)		
学 位 記 番 号	博 乙 第 68 号		
学位授与の日付	平成 10 年 7 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当		
学 位 論 文 題 目	J.J.P.アウトの「デ・ステイル」期の活動に関する研究		
審 査 委 員	(主査) 教 授 河 邊 聡		
	教 授 西村征一郎	教 授 日 向 進	国立国際 美術館長 宮 島 久 雄

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、近代のオランダ人建築家、J.J.P.アウト（1890-1963）についての「デ・ステイル」期の活動を中心とした研究である。また近代建築にとって一つの中心課題とされた労働者用住宅に関する思想に焦点を当てたものである。アウトの建築家としての活動は16才にして始まり、その後の50年間にも及ぶ。その半世紀にもわたる活動のなかで「デ・ステイル」運動に積極的に関与した時期は、1917年から1922年までのわずか5年間にすぎない。しかし晩年にアウトは、自身にとってのその時代の重要性を強調している。

論文は、序を含めて4章から構成されている。

序では、研究の背景と目的、関連既往研究及び論文の構成を示し、加えて本論を展開するに基礎となるアウトの生涯にわたる活動及び「デ・ステイル」運動を概観している。

第一章では、「デ・ステイル」誌への寄稿を通じて近代建築家としての活動を開始することとなる1910年代後半という時期に、アウトが建築をどのようなものとして考えていたのかを理解する上で重要な意味を持つと考えられる「モニュメンタル」という概念について考察している。

第二章では、前章での「モニュメンタル」という概念の建築的展開として位置付けられる「標準化」の意味について考察している。

第三章では、アウトが自身の理論の実践への展開を試みるスパンゲン地区の四つの集合住宅作品を取上げ、その住棟配置形式、平面計画、造形上の試み、さらにはその場において実践された「協働」ということについて論考している。ここでは先行研究において多くが「デ・ステイル」活動との矛盾のなかで語られてきた労働者用住宅作品の意味について新しい知見を提示している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

アウトはこれまで、20世紀初頭の芸術運動の一つである「デ・ステイル」に参加した建築家として、あるいはロッテルダムやシュトゥットガルトにおける近代建築の模範と評される労働者用住宅の設計者として知られ、それらに限って個々に論じられることが多かった。これに対して本論文では、アウトにとって「デ・ステイル」期の活動とは、その直後の国際的な名声を得ることになるための単なる踏み台ではなく、実は全く異なった様相と思わせる1930年代後半から50年代にかけての一連の設計活動の基礎になっていたものであると、論者は「デ・ステイル」への参加と作品との関連性を主張する。アウトの「デ・ステイル」期の活動は、これまで前衛的な芸術家の造形原理との関係のなかで論じられることが多かったが為に、その本来性が見出されることは稀であったと論じている。またこの時期に実現された労働者用住宅は、多くが「デ・ステイル」と切り離されたところで扱われてきたとし、このことは「デ・ステイル」の芸術家の造形原理や、その具体的な造形との関係からのみアウトの作品を読み取ろうとしたことに起因していた

と考え、本論文はこの点を深く考察している。すなわちアウトの言説を中心に「デ・ステイル」結成当時、つまりは「デ・ステイル」誌創刊時において何が問題とされていたのかを明らかにした上で、建築家としてそれを如何に自身の作品に展開しようとしたかについて論考している。「デ・ステイル」だけでなく、「未来派」や「ロシア構成主義」といった、「前衛」と評された20世紀初頭の芸術グループは、その造形における革新性ととも、諸芸術を包含した運動であったという点において共通していると、彼らが異なった芸術領域で活動する以上、個々に異なった表現を用いたとしても、そのことは不思議なことではないとする。その上で「デ・ステイル」という文脈からは意識的に排除されたところで考察の対象とされてきた実務としての労働者用住宅において、彼の理念がどのように発現しているかを明らかにしている。「居住街区」の実践的なアプローチを試みるなかで「協働」という概念を確立し、アウトは建築家として覚醒していくことになる。そこでは「協働」者という他者が指定され、その存在を意識することによってアウト自身が逆に自己を見出し得たと、論文は結論づけている。先行研究において多くの場合「デ・ステイル」の矛盾において語られてきた労働者用住宅の意味が「協働」という点に有ることを考察し、アウトにとっての「デ・ステイル」期の意義と、この点で通じているとの新たな見解を提示している。

本論文にかかわる公表学術論文は2編である。共に日本建築学会計画系論文集に掲載され、いずれも申請者の単著である。2編は次のものである。

○本田昌昭「J.J.P.アウトにとっての「モニュメンタル」という概念をめぐって」、日本建築学会計画系論文集、第487号、pp.235-242、1996年9月

○本田昌昭「J.J.P.アウトの建築思想における「標準化」の意味について」、日本建築学会計画系論文集、第499号、pp.215-221、1997年9月

この外に共著による著書3点及び参考論文15編がある。